



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



大阪部会 (No.81)

日時: 2022年 10月 29日 (土) 15:00 - 17:05

場所: 同志社大阪サテライト+ZOOM会議

参加者: 参加20名(会場6名、zoom14名)

【内容要旨】

最初に李洪俊氏(大阪市立矢田南中学校)から、高校入試問題「公民」の分析結果が示された。李氏からは、前回の大阪部会で「コロナ禍における高校入試(2021年3月実施)について」と題する資料が配付されたが、今回「全国高校入試問題(2022年3月実施)について」が追加され、2年合わせて問題の傾向や特徴が報告された。

まずコロナ禍における入試問題では、授業時間不足に配慮して多くの県で出題範囲を減らすなどの対応がとられた。そのため経済分野の出題が減少し、その中でもたとえば世界平和と人類の福祉などの問題が除外された。また、コロナ禍前には新学習指導要領を受けて増加傾向にあった問題(資料を読み取り記述、提案型、時事問題などが)が減少し、以前の知識理解を中心とする記号選択問題に戻ってしまった点が指摘された。

それが22年3月実施の入試問題になると、経済分野の出題が前年より少し増え、新指導要領の方向性に沿った問題も復活・定着してきた様子がみられた。それを確かめるために、多面的・多角的な見方に関する問題、現代の課題に関して提案・選択させる問題、効率・公正に関する問題、歴史と経済に関する問題、時事問題の5つに分類して、李氏から代表的な出題例が紹介された。さらに「歴史」の入試問題の中に経済に関する設問が増えていることをうかがわせる例も示された。

兼間昌智氏(札幌大学)からも、「歴史」「地理」において経済に関する問題が増加傾向にあるとの指摘があり、社会科だけでなく「家庭科」も加えた総合的な問題が増えていること、そのような学習が求められていることが確認された。

次に山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から「夏の経済教室」で紹介された教材を使った中学公民の授業実践報告が行われた。すでに株式会社の仕組みを学習済みの中学3年生に対して、本年9月、10月に実施された授業例である。まず9月には、「とうしんくんとタイムトラベル!~資産形成を体験しよう!~」(証券知識普及プロジェクト)を用いた授業が行われた。東京書籍教科書「みんなでチャレンジ 投資家になって考えよう」に関連したグループワークを通してESG投資について理解する、「とうしんくん」に沿って、何年間にわたる分散投資を体験する、その結果をまとめ議論することによって、長期投資・分散投資・積立投資の意義を学び理解を深めるように構成されている。

ついで10月には、今夏の経済教室で新井明氏(目白大学)から紹介された金融・情報リテラシー教材(LINE みらい財団))を用いた授業が行われた。この教材は、基本編:「信用」ってなんだろう?、応用編:「見えないお金」との付き合い方を考えよう、応用編:複利的思考を身につけようの3部から構成されているが、「複利的思考を身につけよう」を中核にした1時間の授業となっている。財団HPから提供されているスライドやワークシートを用いながら、信用と信頼の特徴や重要性を学び、ペアワークでの議論や数値計算も行って、複利の事例を体験し複利の考え方や重要性を理解させるという内容である。

この教材を紹介した新井氏からは、自身が行った授業との類似点や相違点、そして課題が紹介され、



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



教材としての有効性が確認された実践報告であったと感想が述べられた。

最後に丹松美代志氏（大阪学びの会代表）から「近世文化史再考～近世大坂における懐徳堂を中心とした有力町人の学芸～」と題した研究発表があった。江戸時代の大阪では、早い時期から商人の抛出による塾が開かれ、経済ばかりでなく学問・文化が発達していたことを示す内容である。その例として平野の含翠堂、大阪の懐徳堂が取り上げられ、そこでの文化活動、学習活動が文献と実地調査をもとに紹介された。含翠堂で連歌会が開かれていたことや、懐徳堂においては中井竹山、富永仲基、山片蟠桃、草間直方などが官学に対抗した先進的な学問に取り組んでいたことなどが示され、社会的・時代的な背景や交流関係なども紹介された。その上で、このような地元の文化を残された資料をもとに読み解き、探究する取組みを新科目「日本史探究」で行うとよいという提言があった。

報告に対し、奥田修一郎氏（高野山大学）からは、都市が発達すると何がどう変化するのかをまとめ、江戸、大坂、京都の比較を通して、自由さなど大阪の特性を明らかにしてはどうかとの意見や、商業・流通に目がいきがちな大阪において、江戸時代の生産技術についてはどうだったのかという質問があった。また、兼間氏や新井氏からは、明治維新に人材を輩出した適塾との関係など、何のために江戸時代の大阪文化史を探究するのか、明確にしたうえで探究授業にとりいれたいとの意見があった。さらに山本氏からは、「倫理」に関する話があることが紹介された。

（注）この要旨は、メールマガジン 166 号（11 月 1 日発信）において新井明氏がまとめられた部会報告を参考にまとめました。
（文責：野間敏克）

✓テスト問題 (新テストなど)	✓中学 小学	✓高校	✓指導案	新聞教材(NIE)
--------------------	--------	-----	------	-----------

次回開催予定：2023年1月28日(土)15:00～17:00、同志社大阪サテライト